

はじめに ～ 2024年JNTO国際会議統計の発行に当たって ～

本統計集では「JNTO国際会議統計」「ICCA（国際会議協会）統計」「UIA（国際団体連合）統計」の3つの統計を掲載しています。

「JNTO国際会議統計」ではJNTOが定義する統計基準（2ページ参照）に基づき、全国の自治体やコンベンション・ビューロー、府省庁の協力のもと調査を行い、全国における国際会議の開催件数や会議参加のために訪日した外国人参加者数を把握し、毎年公表しています。

2024年に日本で開催された国際会議件数は1,702件となり、前年の1,376件から23.7%増加しました。新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響により、一時的に大きく減少していた国際会議は徐々に回復を続けています。また、国際会議の参加者総数は前年比で22.1%増の1,241,049人、うち外国人参加者数は同22.8%増の158,934人と、いずれも件数と同程度の伸びとなりました。2019年比では、開催件数が47.0%であったところ参加者総数は62.2%、外国人参加者数が74.5%となっており、参加者総数、外国人参加者数は件数以上により強い回復が見られます。1件当たりの平均外国人参加者数は93人と、前年に続き、2019年の平均（59人）を大きく上回る結果となりました。

また、国際会議件数を規模別でみると、参加者総数が50～200人未満の規模の会議が54.2%と全体の半数以上を占めていますが、2019年（61.1%）と比較すると、その割合は低くなっており、規模の大きい国際会議の占める割合が2019年を上回る傾向が続いています。一方、2024年では参加者総数が200人未満の会議の前年比での増加率は200人以上の規模の国際会議の増加率を上回っており、比較的規模の小さい国際会議の回復が特に進んだと考えられます。

分野別では、「科学・技術・自然」「医学」といった理系分野の会議は2019年に全体の約6割を占めていましたが、2024年には7割以上を占めており、COVID-19以降の回復が早い傾向がみられます。

今後も国際会議の開催件数は増加が見込まれますところ、JNTOでは引き続きその動向を注視してまいります。